



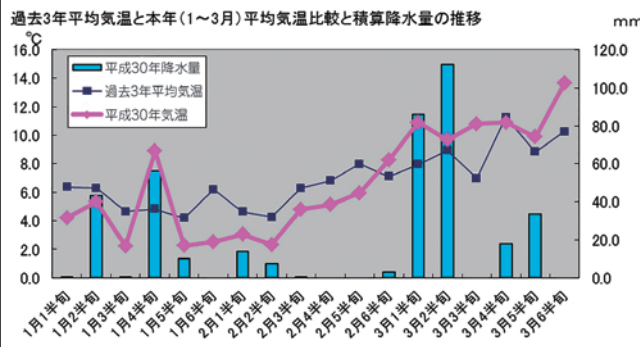
今年は短期集中型となりそうです。  
刈遅れに注意  
しましょう

# 茶



農業経営支援課  
山本 尚充

最強クラスの寒波が頻繁に到来し、乾燥続きたつた1月2月から一変し、3月の降水量は多く（月間降水量ECセンサー茶平均値249・3mm）、気温も高く推移しました。今年は、県内の桜開花宣言が平年より7日、昨年より15日早く発表され、一番茶も桜同様に早い生育で進みそうです。各地域が実施している生育調査では、昨年より7〜10日程度早く生育しているようです。また、山谷の生育差も無く順調に生育し、冬の寒さで十分休眠がとれて



《茶園を観察しよう》  
一番茶摘採前に茶園全体を見て、芽の数が多いか少ないか、芽の状態を詳しく観察しましょう。芽の数が多い場合は、芽が小型化し、いわゆる「芽数型」になります。新芽を見比べて「いい芽、悪い芽」と感覚的に

いることから、品質も相当期待できます。ただし、本年の傾向として、品種および、地域による生育差が小さいため、短期集中型となりそうです。刈遅れには十分注意が必要です。

《開葉と葉のアミノ酸》  
茶の芽に含まれるアミノ酸含有量は、葉の位置によって図のように大きく異なります。この差があるため、開葉度が若い時に刈ると高品質のお茶ができます。

言いますが、肉厚な良い芽は実際に重さがあり、0.5g以上あれば「良い芽」となり、通常は0.4〜0.45gです。それ以下は「小型芽」となり、開葉が早く伸びが悪いため、刈遅れてしまうことがあります。刈り遅れがないよう茶園の芽の構成を観察し、摘採計画を立ててください。

### 部位別アミノ酸含有量



茶の